パネルディスカッション報告要旨
「世界からみた日本のオルタナティブデータのエコシステム：課題と可能性」

株式会社ナウキャスト　代表取締役 CEO　辻中仁士

- コロナ禍をきっかけにオルタナティブデータの普及はグローバルに進んでいる。特にクオンツ系ファンドを皮切りに、いわゆる「短期筋」と呼ばれるような株式ロングショートファンド、そして今や年金基金等を含むロングオンリーのオルタナティブデータ活用も非常に活発だ。こうしたデータドリブンの定量的な（quantitative な）運用と伝統的、定性的なアプローチを融合した投資手法として Quantamental というアプローチに注目が集まっている。
- また、上記に加えて、政府・中央銀行等パブリックセクターでの活用も積極的である。海外においては FRB のパウエル議長がコロナ禍直後の 2020 年 7 月の記者会見でオルタナティブデータ（特にクレジットカードデータ等）を活用し、モニタリングを行っていることを名言した。このほか、IMF や ECB 等各国でオルタナティブデータを活用したリサーチのあり方について様々な研究報告がなされた。この点は日本銀行においても同様だった。
- 一方で、国内の金融領域に目を向けると、まだまだオルタナティブデータの活用事例は少ないと言わざるを得ない。この点については、人的な体制整備の遅れ、規制環境の曖昧さ、システムインフラの未整備など、様々な要因が考えられる。
- また、データベンダーにおいては金融領域と非金融領域が分断されているが、この分断を越えていく流れを構築していくことが期待される。
- 以上のように、海外と比較したときに、国内のオルタナティブデータのエコシステムは未成熟であると言わざるをえないが、逆に言えばまだまだチャンスは大きいとも言える。今後のエコシステムの成熟化を期待しつつ、結びとしたい。